

「下水汚泥資源を活用した持続可能な農業試験」

～奄美大島・鹿児島市内での施肥試験の取り組み～

近年、化学肥料の価格高騰や輸入依存による供給不安が顕在化し、農業者の経済的負担につながっています。こうした状況を受け、国では「食料安全保障強化政策大綱」などに基づき、肥料の国産化や下水汚泥など国内資源の肥料化を推進しています。

下水汚泥は、リンや窒素等の肥料成分を含有する国産資源として期待が高まっており、食糧安全保障の強化や農業の持続性に貢献する取組として、さらなる肥料利用の拡大が求められています。

このような背景のもと、鹿児島市水道局では、下水汚泥資源の有効活用を目的として、下水汚泥肥料の利活用を進めています。農業生産者の協力を得て、奄美大島および鹿児島市内の圃場において、作物の生育や肥料効果を検証する施肥試験を開始しました。

試験の目的

- 下水汚泥資源の循環活用による安定的な農業生産の実現
- 下水汚泥肥料の有効性の検証
- 作物の品質や生産性を評価し、地元農業への応用可能性を検証

施肥試験の概要

- ・試験場所：奄美大島・鹿児島市内
- ・試験作物：サトウキビ、かぼちゃ等
- ・試験区分：以下の区分で比較試験を実施

作物	区分	肥料内容
サトウキビ	区分 1	化学肥料
	区分 2	化学肥料+下水汚泥肥料
	区分 3	下水汚泥肥料のみ (カリウムは化学肥料で補充)
かぼちゃ等	区分 1	化学肥料
	区分 2	化学肥料+下水汚泥肥料

※ 施肥試験の概要は、試験作物の追加に応じて随時